

違う見方からの発見

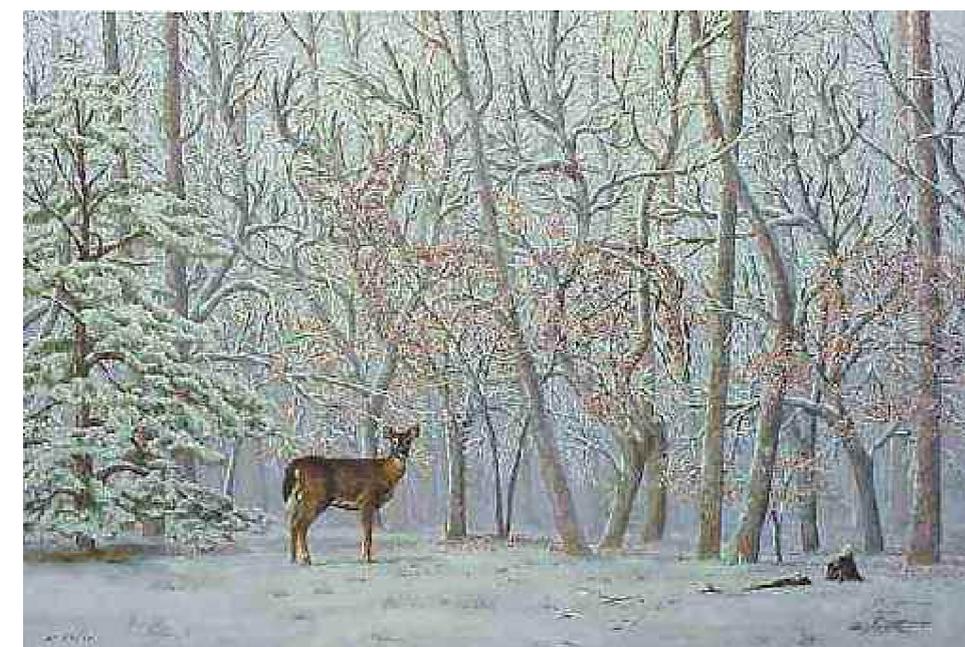
一年七組 岩田 悠

自分でAと思っていたものを、人にBでもあると指摘され、それでもあると納得した経験は、だれにでもあるだろう。

左の絵は、白が中心で青が背景となり、おかしい形が五つあるように見えるだろう。しかし、上と下にある青い部分を隠してみると、一瞬のうちに、『L・I・F・E』＝ライフという文字が、青を中心に見ることができよう。

このことは、日常生活でも経験するだろう。町にきれいな虹が出てきたとしよう。出てきた虹を中心に見れば、街は背景になってしまう。逆に街を中心に見ると、虹には気づかず、空として背景になってしまう。

左の絵では、森の中で一頭の鹿がこちらを向いている。しかし、目を離してみ



ると、木々が大きな鹿に見えてくるだろう。または、それ以外のものと見る人もいるかもしれない。

これは絵に限ったことではない。遠くから見ればまだ花の咲いていない桜の木でも、近づいて見ると、少し花が咲いた、春の訪れを感じさせる桜の木となることもある。

このように、今まで見ていたものを別の方向から見ることで、同じものでも別のものに見えてくることもある。だから、一回見たら、それを「これしかない」と決めつけず、見方・考え方を変えることによって、今よりもたくさん新発見を見つけることができるだろう。